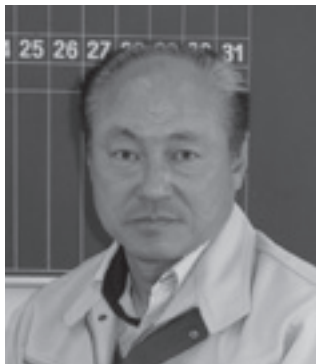


# 有限会社旭陸送の巻 (旭市)



2016年ビッグイベントの一つは、4年に1度開催されるスポーツの祭典「オリンピック・パラリンピック」です。8月5日からブラジル・リオデジャネイロで国の威信と名誉をかけた熱い戦いが繰り広げられます。4年後の2020年には、56年ぶり2回目となる東京オリンピックが開催されますが、新国立競



▲加瀬正義社長

技場の建設問題や大会エンブレムの盗作疑惑が報道され、残念ながらネガティブな話題が注目されてしまいました。しかし、日本人選手には日頃のトレーニングの成果を十分に発揮し、リオ五輪では輝かしい成績を残すことを期待します。そこで国民の関心が高まり、後の東京オリンピックが夢と感動の舞台となるようお願いしてやみません。

☆☆☆☆

朝晩の冷え込みは厳しいものの、日中は春のぬくもりを感じる季節になりました。そんな晴天に恵まれた3月2日、私たちは、第69回目の事業所訪問先として、旭市に所在する有限会社

旭陸送（加瀬正義社長）をおとずれました。

旭市は、千葉県の北東部に位置し、年間平均気温は15度と温暖な気候、豊かな自然に恵まれています。産業は、畜産、農業、水産業などが盛んです。平成17年7月には海上町・飯岡町・干潟町が合併し、東総地域の中核都市として、今後の発展が期待されています。

今回の目的地は、田園風景を望む一角にありました。近隣には旭市役所や地域の中核病院である「国保旭中央病院」もあります。

## 賃金や待遇の改善を行い 人材不足による 業界の衰退を防ぐ

「こんにちは健康組合です！」と本社事務所を訪ねると、加瀬社長が自ら出迎えてくださいました。ご多忙なか、貴重な時間をちようたいしました。

まず初めに、私たちは当健康組合の財政状況、社会保険制度を取り巻く環境について、とり

## 約50年にわたり 地域経済の発展に寄与

旭陸送は、昭和42年に旭市で設立されました。業務内容は、地域性を生かし、主として東総地域の農業協同組合が取り扱っ

☆☆☆☆

2人体制で見落としがないよう入念なチェック体制を確立しているそうです。点検意識を高めることで愛車精神や命を預かる社会的責任感を育み、安全運転、事故防止に役立っているようです。自らの体験から情報や技術を習得し、経験を積み上げることでこそ、セーフティドライバーへの近道であるとも話されました。

## 社員には健康づくりのため ウォーキングを勧めることも

加瀬社長ご自身の趣味や健康への関心について伺いましたところ、ゴルフが趣味で心身ともにリフレッシュしているとのこと。健康への関心は「特にありません」と答えながらも、実際には野菜中心の食生活を心がけ、定期的な健診を行っていると話します。ご自身が気付かなくとも、意識の深いところで「健康づくり」を考えているのかもしれない。従業員に対しては、健康管理のために、積極的にウォーキングを勧めるくらいですから。



▲旭陸送のトラック

ている肥料や飼料、米などの集配を手がけています。これは、設立当初からおおよそ50年にわたり連続と続く事業です。

集配は、早朝から手積み・手卸しによる肉体労働が求められることから「大変きつい仕事も含まれるようですが、ドライバーの定着率はどうですか」と聞くと、土地柄もあってか率先してお互いの作業を補う等、ドライバー同士の仲間意識、連帯感から定着率は高いとのことでした。人間関係の希薄がささやかれる昨今において、お互いに支え合う温かみのある社風が、同社で働く意欲を生み、定着率の高さにつながっているものと感じました。

加瀬社長は、先代が築き上げた基盤を継承し、平成元年に2代目の社長に就任されました。バブル経済の崩壊後、経済不況が長く続くなか、社員とその家族の生活を守るべく、今日まで安定した経営に努めてこられました。同社が深く関わる農業事情は、後継者不足による農家の

減少、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）問題など、先行き不透明な状況が続くと見込まれますが、加瀬社長の経営手腕と強いリーダーシップのもと、社会情勢の変化や、物流の多様化・高度化に柔軟に対応し、社員一丸となって難局を乗り越えていけるものと確信しました。

## 「体験」から「経験」を 積み上げることが セーフティドライバーへの近道

次に、人材育成についてお聞きしました。

同社では、定期的に安全運転、労働災害防止研修会を開催しており、なかでも特に、加瀬社長が強く指導されることは、ドライバー自身による車両の点検整備とのことでした。事故がひとたび発生すれば、会社もドライバーも大きな損失を被ることにあります。車両不備は、交通事故に直結します。そこで、交通事故を未然に防ぐため、運転前にドライバー自身が担当車両を点検整備し、タイヤの空気圧は